



ネットの情報収集で重宝され急成長してきたキュレーションサイトが転機に立たされている。DeNA社のWELQを筆頭に、大手キュレーションサイトまでが次々に閉鎖に追い込まれている。信頼性の低い悪質なパクリ記事の大量生産が、社会問題化したからである。このキュレーションサイトの成長に賭けたDeNAビジネスとそれを下支えたクラウドソーシングに焦点をあて、この業界の歪んだ構造を明らかにしたい。

キュレーションサイトの成長と相次ぐ閉鎖

大手キュレーションサイトが、相次いで閉鎖に追い込まれている。リクルートホールディングスのギャザリー（グルメ・ファッション系）、サイバーエージェントのスポットライト（ニュース・娯楽系）、ヤフーのトリフ（美容・ファッション系）などなど。

騒動の発端は、DeNA（東証一部、eコマース事業の大手）のキュレーションサイトWELQ（健康・医療情報系）の炎上である。2016年11月29日以来、同サイトは閉鎖に追い込まれた。これに先立ち、東京都福祉保健局も、WELQを問題視したのである。

続く12月1日には、DeNAは同社の9つのキュレーションメディアの閉鎖を発表し、12月7日には、社長・会長による謝罪会見を行っている。そこで、WELQの記事で著作権侵害の恐れがあるケースが、約11万件もあったことを明らかにしている。

WELQが炎上し閉鎖に追い込まれたのは、同サイトの記事の多くにおいて、医学的根拠が無い、薬機法に抵触する、他サイトからのパクリなどの疑惑が次々と浮上し、医療やIT関係などの専門家による追求もあり、酷い実態が白日の下に晒されたからである。

キュレーションサイトは、我が国では「まとめサイト」とも呼ばれ、「インターネット上のデータや情報を、テーマや関心に応じて集約したサイトの総称」（日本大百科全書）である。キュレーションサイトは、グーグルなどのロボット型の汎用検索で不十分だった部分を、人手による検索で補完するサービスとして登場し急成長してきた。

我が国でのキュレーションサイトの登場は2009年からといってよく、わずか7年ほどの歴史である。この先駆は、「NAVERまとめ」（2009年7月）や「Togetter（トゥギャッ

ター) (2009年9月) といったサイトである。

キュレーションサイトが、ネットで注目を集めるようになるのは、2014年頃からである。ネット検索の主役が、パソコンからスマホへと変わったからである。スマホから、何時でも何所からでもアクセスできるキュレーションサイトに、人気が集まるようになった。

さらに、特定の閲覧者とテーマに焦点を絞った分野特化型キュレーションサイトの相次ぐ登場が、人気に拍車をかけた。冒頭で紹介したキュレーションサイトは、すべてこの分野特化型に属するものであり、スマホとの相性が非常に良かったのである。

DeNAのキュレーション事業への歪んだスタートアップ(Startup)

DeNAの期待の新規事業であるWELQは、なぜ破綻したのか。それは、スタートアップを急ぐあまり、パクリ商法という禁じ手を使ってしまったことによる。特に、健康・医療情報にまでパクリをして、人々の不安や不信感を招いてしまったからである。

DeNAは、それまでの経営の柱であったゲーム事業の不振により、次の経営の柱となる新規事業の開拓に迫られていた。そこで注目したのが、ここ数年人気を集めるようになっていたキュレーションビジネスであり、そこでのスタートアップを目指したのである。

スタートアップの手始めは、2014年10月の「iemo」と「MERY」のキュレーションサイトを運営する2社の買収であった。その半年後の2015年4月には、キュレーション事業を拡大する「DeNA Palette 構想」を発表し、キュレーションプラットフォームを10個まで増やす拡大戦略をスタートさせ、このなかでWELQを立ち上げている。

WELQの躍進は、DeNA経営陣の期待以上とあってよい。WELQは、2015年10月のスタートにもかかわらず急成長し、2016年6月の利用者は推定631万人、直近3ヶ月で2倍以上と急増した(ニールセンのスマホ視聴率情報「Nielsen Mobile NetVies」調査より)。

スタートアップを目指した非常識な事業展開には、逆に、DeNA経営陣が次の経営の柱の育成への焦りが透けて見える。通常のビジネスであれば、これ程まで無理を重ねる必要はないのに、スピード重視のIT業界であったことが、裏目に出たとあってよい。

WELQのサイトでは、「健康や医療をもっと身近に」をテーマに、「普段より弱気になりがちな、不調を抱えた時こそ、健康や医療に関する、ありとあらゆる悩みや疑問を解決できる教科書のような存在になりたい」とうたっている。

しかし、実際には他サイトの健康と医療にかかわる情報をパクリ、医学的根拠のない情報を信頼性があるように粉飾したり、興味本位の面白情報に仕立て直したりしていた。誤った医療記事が及ぼす健康被害に対する配慮は、完全に欠如していた。

それは、WELQが収益確保を最優先していたからである。興味本位のパクリ記事を大量に発信し、数多くの閲覧者を獲得することで、収益確保を目指した。「広告単価×アクセス数」という広告モデルを採用し、閲覧者からのアクセス数の獲得を最重視した。

このために、SEO(Search Engine Optimization、検索エンジン最適化)対策を徹底した。WELQは大手検索エンジンの検索の評価基準と、ネット閲覧者が検索に使用する用語法を入念に調べて、スマホ画面の最上位に表示されるように巧く操作したのである。

この結果、女性閲覧者がスマホ検索すると、医療専門家による信頼性のある医療情報サイトよりも、WELQの疑わしい記事が、最初にずらずらと表示されるようになっていた。

キュレーションサイトとクラウドソーシングの歪んだ業界構造

問題は、WELQ に代表されるキュレーションサイトが、なぜ急成長をとげられたのか、なぜ信頼性のないパクリ情報で溢れていたかの 2 点である。冒頭で紹介したように、大手キュレーションサイトが相次いで閉鎖に追い込まれている事情からみても、DeNA の経営体質だけの問題ではなく、業界全体の構造的な歪みが大きく寄与していたのである。

この業界は、大手キュレーションサイト、クラウドソーシング (Crowdsourcing)、そこで働くクラウドワーカーという、3 階層のピラミッド構造を形成している。キュレーションサイトから仕事の発注を受け、人材提供するのがクラウドソーシングである。

クラウドソーシング (朝日新聞、2015 年 9 月 5 日) は、「Crowd (群衆) と sourcing (業務委託) の造語。企業は不特定多数の人にネットを介して安価に外注でき、経営効率が上がるとされる。受注側は働く場所や時間に拘束されないため、フリーランスや主婦、退職者など幅広い活用が期待されている」と解説している。

クラウドソーシングという造語は、ジェフハウ (Jeff Howe) の「クラウドソーシングの台頭 (The Rise of Crowdsourcing)」(米 WIRED 誌、2006 年 6 月号) の記事により、世界中に広まった。我が国のクラウドソーシングビジネスは、2009 年頃から本格化し (情報通信白書、2014 年版)、2016 年 11 月現在、クラウドソーシングで働く者は 330 万人で、この 3 年間に倍増した (日本経済新聞、2016 年 11 月 15 日) と報じられている。

クラウドワーカーは、正社員、派遣社員に次ぐ第三の働き手と呼ばれ、ネット経由で仕事を探す人を指している。その多くはクラウドソーシングに人材登録をしている。在宅勤務や余暇時間の利用が出来るが、単純作業で低賃金で働かされている人が大半である。

今回の WELQ のケースでは、クラウドソーシングの大手である「クラウドワークス」と「ランサーズ」の 2 社に記事作成の業務を発注し、クラウドソーシングに登録しているライターに、安価なパクリ記事を書かせるという構造になっていた (出所 1)。

WELQ で仕事をしたライターの話をもとめると、医療知識のない全くないライターにも、パクリするサイトの見本を提示し、記事掲載元であるキュレーションサイト名は教えず、非常に安い原稿料 (相場は 1 文字 0.5 円) で、大量に記事を書かせていた (出所 2)。

以上みてきたように、大手キュレーションサイトの成長とパクリ記事問題は、業界全体の歪みに基づいており、簡単に解決できる問題ではない。今回の騒動により、それなりの改善はみられるかもしれないが、今後とも繰り返される可能性は高いと見てよい。

しかし、大量の情報が今後もさらに拡大する時代に、情報をうまくまとめるキュレーションサイトへのニーズは大きい。この騒動を契機に、キュレーションの本来の機能を満たす新しい仕組みを構築した企業のサイトの成長を期待したい。この鍵は、専門能力を有する優秀なキュレーター確保と育成にある。 (TadaakiNEMOTO)

出所 1 : 「DeNA の『WELQ』はどうやって問題記事を大量生産したか 現役社員、ライターが組織的関与を証言」、Buzzfeed.com、Keigo Isashi、2016 年 11 月 28 日。

出所 2 : 「クラウドソーシングサイトも共犯だ、キュレーションメディア炎上騒動について WELQ 記事寄稿ライターが怒りの告発」、ねとらぼ、2016 年 12 月 18 日。